

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100725		
法人名	株式会社E-gao		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下田島江川崎11413-10		
自己評価作成日	平成25年7月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりや日常的な交流・協力が得られる住宅地に立地し、「さいとう医院」、「矢野歯科医院」等があり、安心して暮らせる環境にあります。全室南向きの居室の中に、一日中陽の光の差し込む明るい作りになっており、また、ウッドデッキから緑にあふれた広い庭と畑と森を見ることができます。早朝にはうぐいすの音が聞こえ、夜は美しい星空、様々な表情をした月を楽しむことのできるグループホームとなっています。公平、公正で透明性を盛り込んだ運営により、入居者様の人格を尊重し、安心してゆったりとした穏やかな暮らしを提供します。家庭的な環境の中で、顔なじみの職員が“笑顔”で日常生活の支援や機能訓練を行います。散歩や買い物、旬の食材を使ったお食事作りも一緒に見守りながら介助します。入居者様の能力を生かしての共同生活の中で、楽しみや生きがいを見つけていただける支援をいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

団地が近くにあり、住民の理解と協力がある。敷地が広く、庭に畑があり、近所の方や利用者が野菜を植え、草取りを行っている。収穫した野菜は、食材として利用している。火災の時は、地域住民2名、自治会長、民生委員に通報が行くようになっており、避難訓練にも参加してもらうなど、協力体制が築かれている。居室のドアは、防火扉になっている。南側にはウッドデッキの長い縁側があり、散歩ができるようになっている。廊下、食堂などに近所の住民が描いた油絵がたくさん飾ってあり、落ちついた雰囲気になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、フロアに掲げ、皆で共有しており、職員会において唱和している。	全職員で理念を作り上げている。「笑顔で介護に努め、入居者様が笑顔で楽しくゆったりとした生きがいのある暮らしを」の理念に基づき、笑顔で職員が過ごし、何でも言いあえる関係の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、回覧板を回したり、近所の方々と挨拶をしている。地域の運動会や老人会にも参加し、交流を行っている。	自治会に加入しており、「けやきだより」を自治会に回覧している。誕生会などの折には、地域の方の定期的なボランティアの来訪がある。また、地域の敬老会に参加して、交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームにも畑があり、季節毎の野菜を育てている。その際、地域の方の協力も頂いている。将来は、地域の認知症ケアの拠点となれるように、努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を頂き、当事業所からの報告も行い、災害時への対応などを話し合い、参考にしている。また、2か月毎に運営会議を行っており、家族代表、地域代表、地域包括支援センターなど、委員の皆さんの参加のもと、利用者の状況を見てもらい意見を頂いている。	双方向的な会議が行われている。自衛消防団より、火災の時に消火栓からホースを引くと、グループホームのフェンスがあり、ホースが入らないと意見が出て、職員会議で検討し、フェンスを取り除いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との情報交換や連絡相談事項等を行っている。	市には、事あるごとに訪問して連絡、報告等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、玄関の施錠共に全く行われていない。入居者主体のケアに努めている。	マニュアルを作成して、勉強会を行っている。身体拘束に関連したことは、職員会議で話し合っており、身体拘束をしない取組を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部から学んだ具体的な虐待の事例を職員会議などで共有し、その防止に努めている。また、毎年研修に参加し、日頃からスタッフ間で言葉の虐待についても注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では必要とされる利用者はおられないが、成年後見制度について、勉強会をもつように計画する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日ごろから気軽に話のできる関係を築けており、どのような些細なことであっても、納得されるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と連絡を日常的に密にしており、利用者、家族の要望を反映するように努めている。また、毎回家族が会議に参加していただき、要望や意見を伝えてくださる機会がある。出された意見、要望に対しては速やかに対応している。	家族会の会議や来訪時に要望、意見などが出ている。出た意見などは、個人ノートに記録し、職員会議で検討、対応している。しかし、受付簿がなく、検討した内容等の記録がない。	苦情受付簿を作成して、意見等を受け付け、検討した対応方法、報告した内容などを記録に残すことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何事もオープンにしており、スタッフの意見、提案を聴く機会を持っている。 職員は、日常的に提案や意見を出し合い、その都度ケア・支援につなげるようにしている。	月1回の職員会議に代表者、管理者が出席している。職員から出た運営に関する意見などを検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるように、就業環境の整備に日頃より努めている。サービス残業などが行われないように気をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には資格を取得するように勧めている。また、認知症に関する薬の研修会など、研修会にもできる限り参加をするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、東京センター方式地域型基礎研修や異業種地域医療交流会に参加し、同業者と交流する機会を持ち、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と会話をする時間を長く持つことで、本人の不安なこと、家族の困っていることや要望を聞いて、信頼関係の構築が順調に行われるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、意向を聞き、家族の困っていること、望んでいることを聞き、介護疲れを労う、家族の入居させることの負い目と不安を軽減できるように配慮している。また、職員会で情報を共有し、入所されてからの共通会話ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め、本人が安心していられる環境づくりに努めている。家族には、様子を機会があるごとに細かく伝え、安心していただけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人を尊重し、できること出来ないことを見極め、お互いに支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気軽に来られる雰囲気づくりに努めている。来所の折には状況を伝えたり、信頼関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人、親戚の訪問や電話などがある。訪問の際には、本人の居室以外でも、相談室を開放し、そこを利用できるようにしている。	利用者が自宅に帰りたい時には、職員が電話して、家族が自宅や親せきの家、墓参りに連れて行くなど、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く語り合えるよう、廊下にソファを設置し、利用者同士の会話の場を提供している。また、相談室も開放しており、利用者の交流の場となっている。食事は、職員ともども全員で揃ってするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には、市に連絡している。また、代表者と相談機関の連絡先を渡しており、いつでも相談に乗れるようにしている。家族には、退所の際に施設で得られた生活習慣、趣味、趣向などの情報を詳しく文書に記載し、お渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当初よりセンター方式を採用しており、日々本人の言葉を書き出し、そこから本人の希望、思いをくみ取って、それらに寄り添う介護を行っている。	利用者は、思いや意向を積極的に言われている。介護計画書の第1表に記入されている。他には、記録に残されていない。	センター方式を勉強されているので、利用者の思いや意向を様式にまとめて把握することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際に利用者のご家庭にお伺いして、生活環境を確認したり、ご家族とお食事をするなどしてこれまでの暮らしの把握に努めている。また、利用者一人ひとりから過去のお話を傾聴し、それらをストーリー形式にして文書化し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートで一人ひとりの生活リズムを把握している。また、その中で、食器を洗える方、茶碗をふける方等、各個人の能力を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間シートで得られた情報や介護者の気づきを職員会議で話し合い、現状に即した介護の実践に努めている。介護計画は、利用者、家族の希望、医師の意見を踏まえ、担当者会議を開き方針を決めている。	定期的見直し、モニタリングは、3か月で行い、状態の変化時には臨機応変に見直しを行っている。本人、家族に意見を伺い、職員とは職員会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア業務日誌等に記録し、情報の共有を図り、現状に即したケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	畑の作物の指導を近隣の皆さまより受けており、回覧板を回したり、季節毎の野菜を届けてくださっている。こちらでも栽培したものから2次製品を作り、お届けしている。		

宮崎県宮崎市佐土原町 グループホームけやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の運動会に家族・職員もともに参加し、競技にも参加した。利用者地域の方との交流も図られており、お茶を飲みに来られる方も増えてきている。音楽のボランティアなどにも来てもらっている。消防署、警察、市の担当者の方にも来てもらい、指導を受けている。消防署には防災訓練、警察にはパトロールをして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は主に家族が行って下さっているが、日頃より記録をきめ細かく行い、受診時に適切な情報をおかかりつけ医に報告できるようにしている。また、今までにかかった医療機関、家族との情報共有・連携を行っている。緊急を要する場合には協力病院への受診を行っている。	本人、家族、医師の話し合いで、納得したかかりつけ医になっている。ホームの協力医は、往診はなく家族が受診の付き添いを行っている。家族の都合のつかない場合は、職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正確に、早く気づき、利用者の状況によって医療への情報の提供を行い、適切な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は情報提供を行い、経過は家族とともに聞くようにしている。入院中も何度も様子を見に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所にできることを理解していただいたうえで、本人、ご家族の方の思いに沿ったケアを行っていく。	看取りは行っていない。看取りを希望される利用者、家族には、重度化した時には、医療機関を紹介することで納得して頂き、受け入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、緊急時の対応マニュアル、緊急時入居者情報は作成されているが、職員間の共有が不十分であり、今後勉強会を行うようにする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加している。また、消防署や業者の協力による避難訓練も実施している。地震の際の備品も揃えている。防災用品の確認、火災報知機などの点検は定期的に行っており、非常用食料、飲料水も備蓄してある。	火災の時に、地域住民2名、自治会長、民生委員に通報がいくようになってきている。また、避難訓練にも参加してもらうなど、協力体制が築かれている。居室のドアは、防火扉になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個室の居室での生活はできる限り尊重し、部屋を訪れる際は必ず声かけを行う。居室内の清掃も本人在室時に行い、むやみに持ち物に触らないようにしている。また、認知症が進んでも、プライドやプライバシーは保たれているものであると認識して、ケアにあたっている。	聴力の低下した利用者を大きい声で呼んだことで、利用者が怒って話し合いを行い、小さい声で声かけした。プライバシーについて、勉強会を行い言葉かけの対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいか問いかけ、自己決定ができるように努めている。常に本人の望みや好みを考えるように努めている。主体は入居者であることを理解した介護を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での決められた時間(食事、おやつ、就寝)以外の入浴、趣味、外出など、個人のペースで過ごされるように個人の生活を尊重するようにしている。押しつけでない生活の支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝衣を区別し、各々お化粧品や、更衣は自由にいただいている。毎食後の歯磨き、手洗い整髪等の声かけや、出来ていることへの称賛も忘れずに努めている。美容院へは家族が送迎してくれているが、送り迎えを受けている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なにを食べたいのかを尋ね、好みのもの、新鮮で旬のものを味わえるようにしている。梅酒やラッキョウ漬など、季節の食材を使った保存食も手作りしている。配膳や片づけは、不自由者を除く全員で行うこととお互いの役割分担が生まれ、助け合い精神も生まれつつある。	利用者と職員と一緒に食材を切ったり、盛りつけを行っている。勤務している全職員と利用者が会話をしながら一緒に食事をし、楽しく食べる雰囲気作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり、毎食摂取量の確認を行い摂取量の少ない場合は、高カロリーのものを通して頂くように考えて提供している。また、毎月一回の体重測定で、体重の変動をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状況に応じて声かけ、見守り、必要に応じての介助支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中は全員トイレでの排泄に努めている。失敗があった時は、プライバシーに気をつけ入浴、清拭、洗浄を行い、清潔に努めている。立位が困難な方には、二人介助で排泄をしていただいている。	排せつチェックを行い、日中・夜間ともに声かけして、トイレでの排せつを行っている。トレーニングパンツ、パットなど、本人に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、自然排便に繋がるように、食材には食物繊維の多いものや乳製品、野菜ジュース等、飲み物や水分量にも気をつけている。レクリエーションで簡単なストレッチなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、各個人の好みの時間に浴うように、準備している。無理強いを行わないが、日数を考慮しながら入浴を進めている。感染症防止のために、お湯は個別に取り替えている。	入浴したい時間を伺い、夕方に入浴を行っている。週3回であるが、毎日、入浴している利用者もいる。一人ひとりにあわせた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、気を配り休息して頂いている。寝衣への更衣、リネン類の清潔、空調管理等に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方指示通りの支援を行い、誤薬防止の為、個別に小箱に入れ、食後に利用者に手渡ししている。飲み忘れがないように気をつけている。処方に変更があった場合は、申し送りノートに書き、周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を生かし、役割分担を行っている。利用者は配膳、食器の片づけなど積極的にして下さっており、レクリエーションは皆さんで、テーブルで楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に買い物や外出支援を行っている。お花見など、季節ごとの行事を計画し、家族にも声かけを行い、都合の付く家族への参加を呼び掛けている。また、家族との外泊や外出は個人の自由にされている。	近所の散歩、桜、しょうぶ見物、近くの浜、商業施設に買い物など、計画的に外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人が金銭管理をしっかりされている。外出時には、自由に好きなものを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の方のかけたいときにかかけられるようになっており、自らダイヤルのできない方には、必ず職員が対応している。手紙は利用者が外に出られない場合は、職員が投函するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑で作業をされる方、庭の草刈りを楽しんでされる方がいる。廊下にはソファコーナーがあり、和んで会話のできる雰囲気作りがなされている。居間は開放的で広々としており、ソファがおかれ、利用者は洗濯物を畳んだり、横になったり、マッサージを受けたりとくつろがれている。	広い庭で食事をしたり、一面に畑があり、利用者が野菜を植え、草取りなど行えるようになっている。また、ウッドデッキの長い縁側があり、散歩に利用したり、廊下や食堂などに近所の方が描いた油絵がたくさん飾ってあるなど、居心地のよい空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭に面したテラスでは外気浴ができ、廊下のソファコーナーでは日向ぼっこをしながら雑談ができるようになっている。レクリエーションも行われるが、居室に戻りたいときは自由にもらっており、独りになることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは、できるだけ自宅で使用しておられたものを持ってきていただき、配置も同じようになるようにしている。	仏壇、タンス、家族の写真、時計、テレビなどが持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、居室には洗面台、鏡が付いている。施設内には手摺があり、入口は引き戸になっている。職員は入居者の能力を理解しており、能力に応じての支援を行っている。		